

児童福祉の新たな時代に向けて

児童施設 施設長 岡野美智子

今年も残すところあとわずかととなり、新しい年のカレンダーを用意し、来年に思いをはせる今日この頃となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

つくほうだより

令和2年は新型コロナウイルスの影響で不安の日々を過ごすことになりました。茨城県下においても感染が拡大し、障害者施設においても感染者がでております。社会福祉法人筑峯学園に於いてはコロナウイルスを園内にもちこまない、広げないように私生活においても、業務中においても出来る限りの配慮と努力をしております。おかげさまで法人全体の利用者、職員とも元気しております。保護者の皆様方にはご協力いただきまして面会、外泊等を制限させていただいております。まことに御協力に感謝しております。

今年度は冬の宿泊学習も中止いたしました。40年余続いてきた行事がこの様な形で中止なるとは想像外です。楽しみにしている子供たちには申し訳ないのですが宿泊先での緊急の対応は難しいと判断しました。集団の外出を伴う行事は中止せざるをえません。クリスマスのお楽しみ会、餅つき、初もうで、成人式等は行いません。楽しみを持ちながら、心身共に安定した生活ができるように留意していきたいと思えます。

厚生労働省より障害児入所施設における18歳以上入所者の移行についての指針が出され令和3年3月31日までのみなしの期限を延長することなく成人期にふさわしい暮らしの保障と適切な支援を行っていくべきとの提言がなされました。現在、筑峯学園には11名の過齢児がおります。

なお、高等部3年生は5名おります。うち3名はほぼ次の進路が決まっております。月日のたつのは早く幼少期に入所してきましたもあつという間に学卒時を迎えることとなります。令和3年度は早期に個人々人にとってどのような進路がいいのか、本人、保護者の皆様と話し合いを持ってまいりたいと思えます。社会資源は少なく、また、強度行動障害や本人の障害特性等を理解し、柔軟に対応してくれる成人施設も充分とは言えませんが、進路を決定していきたいと思っております。

私達の仕事は子供たちが心身ともに安定して生活できるようにすること、成長を支援することにあります。個人々人がどのようにしたら伸びるのか、実践の中で検証し得たものは科学だと思えます。障害の養育の分

野で確かな科学が沢山得られるよう、職員一同力を合わせて来年度も努力していく所存です。皆様のご支援のおかげで無事に1年を終えられることに感謝しております。良いお年になられることを祈念しております。



第一倉庫と紅葉

新事業の定着を目指して

障害者支援センター未来センター長 松島寿樹

師走の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

筑峯学園のある筑波山麓はクヌギやコナラの落葉が進み、カエデが真っ赤に色付いています。日々進む紅葉の風景に見とれているうちに田畑には霜が降り、本格的な冬が間近に迫ってきています。

令和2年は言うまでもなく「新型コロナウイルス」に振り回された一年でした。活動内容を一から見直す必要に迫られ、例年通りの活動や行事を行う事が困難でした。利用者、職員が楽しみにしている夏季旅行やスキー旅行なども中止を余儀なくされました。一年の中でも、行事を通して様々な貴重な経験をしていたので、

社会情勢を見ながら内容を変えて行事は行ったものの、例年と比較すると悩むことが多い一年でした。

一方、田畑山林での日中活動はおむね普段通り行う事ができました。今年も各班の環境などを考慮して作物や品種を選定し、様々な野菜の生産にチャレンジしています。おなじみ“つくほう米”の生産をはじめ、山田錦や美食同玄米、リゾット米(和みりゾット)などの品種の生産に挑戦しました。同じお米でも品種が違うと想像以上に難しく、今年の経験を来年に繋げていきたいと思えます。畑では数えきれない品目を生産し、山あり谷ありですが日々変化する自然環境と人間の知恵との駆け引きを楽しみながら活動しています。玉ねぎやネギ、もち麦、落花生、にんにくなど

は今後も生産量を増やしていきたいと考えています。

昨年度、土浦市永井に購入した研究所跡地の建物と土地は「永井作業所」として一年間建物内外の環境整備を進めました。最低限の管理のみで十数年放置された環境の整備は予想以上に手がかりました。来る日も来る日も広大な敷地の草刈り、木々の剪定などをし、新たな事業所としての夢に思いを馳せながら一年となりました。最低限の設備も伴わない中で活動で様々な紆余曲折ありましたが、年内に改築工事の完了を予定しており、新年からは新たな事業所「障害者支援センター未来永井事業所」としてスタートする予定です。

今年も法人に関係する様々な方々のお力添えのお陰で、無事に一年を終えようとしている事に心より感謝申し上げます。令和3年はどのような社会情勢になるのか、まだまだ分からないことも多いですが、利用者・職員をはじめ筑峯学園に関係する皆さんが安心して生活できるようにする事を願うのみです。新年もよろしくお願い致します。良いお年をお迎えください。



永井作業所の紅葉

これからつき利用者さんの為に

グループホームほつとハウス 施設長 大和田 敏夫

向寒の候、筑峯学園から見える山々も紅葉し肌寒くなる季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

つくほうだより

今年世界的にコロナウイルス感染症が大流行し、生活や余暇等の様々な面で制限せざるを得ない状況となり、利用者さんや職員共にこれまでとは全く違う1年を過ごすこととなつてしまいました。ほつとハウスでは、施設の構造上、一度感染者をだしてしまうと感染拡大を防ぐことは難しい状況になるため、利用者さんの健康管理や帰宅後の手洗いと消毒の徹底等、職員全体で持ち込まない努力を続け、今のところ1人の罹患者も出さずに元気に生活することが出来ています。これにつきましては、ほつとハウスの運営に関わる全ての皆様のご尽力でありますことを、この場をお

借りして改めてお礼申し上げます。

つくば市周辺のコロナウイルスの発生状況につきましては、近隣地域や福祉事業所でもクラスターが発生する等、依然として予断を許さない状況が続いており、先月末には茨城県より外出の自粛要請がありました。その様な状況であることから、事業所としまして利用者さんと職員の安全確保の為、冬休み期間中の帰省は自粛して頂く決断に至りました。この件につきましては、保護者の皆様にも何卒ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。暗い話からスタートとなってしまいました。が、ここでほつとハウスの近況をお知らせしたいと思います。

緊急事態宣言解除後は、社会情勢を見ながら利用者さんに楽しんでもらうために、出来ることをしていこう

という考えのもと、生活行事では十

五夜やハロウィン調理レク、余暇活動として10月に大池体育館を借りてのスポーツレク、11月には平沢と作谷の利用者さんを分けて、秋の遠足という形でみかん狩り等のイベントを実施してきました。いずれの行事も感染防止に配慮しながらの実施でしたが、利用者さんの笑顔も多くみられ、良い気分転換になったのではないかと感じました。そして、12月といえばクリスマスですね。ここ数年は昼食の時間にクリスマスメニューを食べることが多かったのですが、今年にはクリスマスツリーが輝く夜にクリスマス会を行ないたいという担当者の意向があり、夜にクリスマス会を行なう予定であります。食事メニューやプレゼントについても、利用者さんから希望を聞き取り、担当者が準備や調整をしていること

ろです。グループホームが作谷だけの時代には夜のクリスマス会を実施していましたが、2020年のクリスマス会はどうなるのか、今から12月26日のクリスマス会当日を楽しみに待ちたいと思います。この先のコロナ禍の状況は誰にも予測が出来ないことではありますが、自分たちの業務の基本は利用者さんの為になることを考えて実行していくことだと考えています。コロナ禍の状況でも、

その中で出来ることを職員全体で模索し実行していくことで、利用者さんの生活が少しでも豊かになり、成長に繋がる機会を作る努力をしていきたいと思えます。まだまだ未熟な事業所ではありますが、皆様のご支援のおかげで無事に1年を終えられることに感謝しながら、来年も頑張つて参りますので、今後ともよろしくお願いたします。

皆様も休息を十分に取って、体調には十分気を付けて、良いお年をお迎えください。

すたーとだより

児童発達支援事業所すたーと 管理責任者 引田絃介

今年もお世話になりました。来年もよろしくお願い致します。皆様、良いお年をお迎えください。

2020年も、残すところあと僅かとなりました。寒さも一段と厳しさが増してきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

つくほうだより

今年一年、新型コロナウイルスの感染拡大により生活が一変し、昨年までの当たり前だった生活がいかに“幸せ”だったのかを感じさせられています。すたーとの年間行事計画にも予定していた、外部への遠足は全て中止の判断をせざるを得ない状況でした。2021年も、厳しい状況が続くかと予想されますが、少しずつ暮らしやすい世の中になっていく事に期待をしています。児童発達支援では、10月に“さつま芋掘り”を行いました。今年の夏の暑さのせい吗？品種（安納芋）のせい吗？畑の準備が不十分だったのか？さつま芋の生育状況が悪く、

とても不安でしたが、昨年と比べてもかなり収穫量は少なかったものの、無事さつま芋掘りをする事が出来ました。昨年は、全くさつま芋掘りに参加出来なかった利用者さんが、今年は1番頑張つて掘ってくれたんじゃないか？と思う程に掘ってくれた様子を見て、利用者さんの1年の成長を感じる事が出来ました。掘ったさつま芋は、焼き芋にして美味しく食べました。12月は、クリスマス会・もちつき（児童施設と合同）を計画しています。クリスマス会では、利用者さんによる楽器を使った発表を行う予定です。クリスマス会に向けて、現在練習中です。また、昨年のクリスマス会での引田サンタは怖がられてしまいました。今年はどうな反応を見せてくれるのかとても楽しみです。

令和元年7月1日に、児童発達支援事業所すたーとが開所し、1年半が経過しました。少しずつ“筑峯学園の児童発達支援事業所すたーと”を認知して頂けるようになったのか、見学等の問い合わせのご連絡も頂けるようになってきました。児童発達支援の利用者さんも、12月からは定員10名の所、5名の利用者さんが通ってくる日も出てきて、少しずつ賑やかになってきました。職員も、色々な利用者さんと接する中で、肌で感じる機会も多くなるかと思えます。日々、利用者さんと向き合い関わる中で、職員1人1人が力を付け、利用者さんの状態に合った、適切な支援へと繋がられるよう、今後も職員一同努力していきたいと思えます。

福祉サービス以外の支援を考える……

相談支援事業所 所長 武田真浩

今年も終わりが近づいておりますが、いかがお過ごしでしょうか？皆様にとっても新型コロナウイルス感染症の影響が生活の至るところに見られた一年になったことと思われま

つくほうだより

相談支援においても様々な変化が見られ、利用者やご家族から加えて、訪問は？会議は？どのように対応している？といったこれまで行なえていた対応について、事業所からの相談や対応方法等の問い合わせもあり、こちらから他の事業所に相談をさせていただくこともありました。相談内容については、利用していた事業所がコロナの影響で利用時間が短縮されてしまった、毎日利用していたのに1日置きの利用になってしまった、在宅勤務になってしまった、家にいる時間が長くなってしまったて持て余してしまう、不安定になることが増えている、

等といった内容が増え、これまでに経験したことのない状況下ということもあり、なかなか改善策は見つけられず、一緒に考えたり、頭を悩ませたりすることがほとんどでした。その中で感じたことは、福祉サービスが利用できないと生活が成り立たなくなってしまう方が思っていた以上に多く、そうなった時に次に考えられる策がほとんどないということでした。これまでに福祉サービスがなくなったら、利用できなくなったらということはあることがなかったのですが、実際にそうなる可能性がある状況下となり、利用できなくなった時には…と考えるのですが、考えが進みません。相談支援にて関わらせていただいている方で実際にそこまでの事態になってしまった方は今のところいないのですが、相談支援としては利用者の生活を

もつと幅広く、柔軟に、より重層的に考えていかないとならないと痛感させられております。福祉サービスを提供している事業所側としては、感染症対策をとらざるを得ず、受入をストップしたり制限したり、持ち込まないように、少しでもリスクを抑えられるような対応をとっていかねばなりません。事業所によって対応はそれぞれで、特に入所系の事業所はより慎重な対応をとって、来年の3月までは短期入所や日中一時支援などの普段は在宅で生活している利用者の受入は中止という所もあります。利用されている方にとっては、これまで利用していた支援やサービスが利用できない状況となってしまう、ではどうするか？と考えた時にその後の見通しがなかなか持ちづらい状況となってしまう、かといって他の支援が

すぐに確保できる状況でもなく、結局は家において静かに過ごすしかない、家族が仕事を休んで対応するしかない等ということに至ってしまいます。福祉サービスが利用できなくなると生活に影響が出てしまい、その程度は様々ですが、特に単身で生活している方にとっての影響は大きく、例えば毎日来てくれているヘルパーさんが来られなくなってしまうと食事が摂れない、トイレに行けない、お風呂に入れない、買物に行けない等といった状況となってしまうため、そうなった時の対応も考えなければなりません。協力していただける家族や親戚などがおられる方はまだいいのですが、そのような方がいない場合にはどう対処していくか？、具体的な策が見出せず、リスク覚悟で相談支援専門員が対応するしかないのかといったことを考えることもあります。それぞれ状況が異なるので、一人ひとりに合った対応策を考えていかなければなりません。福祉サービスが利用できなくなった時どうするか？、言い換えると、利用者それぞれの福祉サービス

以外の支援をどう確保していくか？

最後になりますが、利用者さん、ご

は、相談支援としても考えて具体的な

家族、関係各所には今年も大変お世

なものとしていかなければならない重

話になり、様々なご協力をいただき

要な課題です。とは言っても言葉で

まして、誠にありがとうございます。

言うことは簡単ですが、難しい課題

至らないところも多々あるかと思わ

であり、すぐに解決策が見つからない、

れますが、引き続き皆様にとって相

時間も必要とすることとは思いますが、

談しやすい事業所を目指して取り組

ので、今後も利用者やご家族と一緒に

んでいきたいと思っておりますので、

に対応方法を考え続けていきながら、

今後ともよろしくお願い申し上げます。

少しでも生活に支障が出ない状況を

す。

整えることができるように努めていき

たいと思っております。日々の積み重

ねが大切かとも思いますし、非常時

や緊急時にはやはり地域で助け合う、

支え合うしかないのではないかと、その

枠組みがそれぞれの地域で確保され

ていると違ってくるのではないかと

思います。これまでも考えてきたつも

りではおりますが、不十分であったこ

とは間違いないので、福祉サービ

ス以外の支援も幅広く活用した利

用者の方の生活を構築していくとい

う視点を今後はより考えて、相談支

援にあたっていききたいと思ってお

す。